



当社は、JAPICの動物実験実施施設認証を取得しています

感染試験のご紹介

NBRとして感染試験を開始して11年が経過しました。この間に実施した試験数は約270試験、取り扱える病原体も徐々に増え、新しい試験系にもチャレンジしてきました。感染試験のご用命がございましたら、お問い合わせ下さい。これまでの経験を基に試験条件から相談させていただきます。

◆ インフルエンザウイルスを用いた呼吸器感染試験

【使用ウイルス株】

インフルエンザウイルスPR8株
(A/PR/8/34 (H1N1))

＜スケジュール＞

接種日

接種後6日

ウイルス接種 ▲

剖検

タミフル投与 ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑

＜評価項目＞

- ・一般状態スコア
- ・体重
- ・肺の肉眼的観察及びウイルス量測定

◆ ロタウイルスを用いた消化器感染試験

【使用ウイルス株】

サルロタウイルスSA11株
(Simianrotavirus SA11 strain)

＜スケジュール＞

生後3日

5日

7日

14日

被験物質投与 ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑

ウイルス接種 ▲

糞便観察、糞便の採取 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶

＜評価項目＞

- ・糞便性状観察
- ・糞便中のウイルス量

◆ 黄色ブドウ球菌を用いた皮膚感染試験

【使用菌株】

黄色ブドウ球菌

＜スケジュール＞

接種日

接種後4日

皮膚摘出

被験物質投与 ↑ ↑ ↑ ↑

菌接種 ▲

＜評価項目＞

- ・皮膚病変度
- ・皮膚の生菌数

オンラインセミナーのご案内

第7回オンラインセミナーでは、BSL2までの細菌やウイルスを用いたvitroからvivoまでの数々の試験系について「無料のオンラインセミナー」(Microsoft Teamsを使用)を下記の通り配信いたします。是非ご視聴ください！

4月15日(金) 15:00~16:00 「**感染関連試験のご紹介**」
 講演者：株式会社日本バイオリサーチセンター 試験部 佐久間 隆介

<呼吸器感染>

病原体	動物種	評価項目
インフルエンザウイルス (気道感染)	マウス	一般状態、肺のウイルス量、NK活性、生存率
インフルエンザウイルス (空気感染)	マウス、モルモット	一般状態、肺のウイルス量
RSウイルス (気道感染)	マウス	肺のウイルス量

<消化器感染>

病原体	動物種	評価項目
ロタウイルス	マウス (仔)	下痢症状、ウイルス量 (糞便中)
Helicobacter pylori (ピロリ菌)	マウス	生菌数 (胃内)
サルモネラ菌	マウス	生菌数 (脾臓)
Clostridium difficile	ハムスター	生存率、病変度観察、下痢症状

<皮膚感染>

病原体	動物種	評価項目
黄色ブドウ球菌	マウス	病変度観察、生菌数 (皮膚)
ヘルペスウイルス	マウス	病変度観察、疼痛評価
白癬菌	モルモット	病変度観察、生菌数 (皮膚)

<全身感染>

病原体	動物種	評価項目
MRSA	マウス	生存率、生菌数
カンジダ	マウス	生存率、生菌数
肺炎球菌	マウス	生存率、生菌数
耐性緑膿菌	マウス	生存率、生菌数

<vitro>

- ・抗菌作用試験
- ・抗ウイルス試験
- ・抗生物質感受性試験
- ・人工プラーク付着性試験
- etc

<病原体>

ウイルス	細菌	真菌
インフルエンザ	黄色ブドウ球菌・MRSA	カンジダ
ヘルペス	肺炎球菌	白癬菌
ロタ	緑膿菌・耐性緑膿菌	
ノロ	サルモネラ菌	
ネコカリシ	ミュータンス菌	